

平成20年度の業績

預金

◎ 預金については、引き続き、お客様の視点に立ったサービスの拡充や利便性の向上に努めた結果、前年を大きく上回る増加が図れました。

科目別では、定期預金が夏季及び冬季特別定期預金の取扱いなどから93億円増加し、定期性預金で88億円の増加となり、流動性預金についても、普通預金が順調に増加し、147億円の増加となりました。

人格別でも、引き続き「個人預金」が堅調に推移し、201億円増加しました。

以上から、預金全体の期末残高は**5,620億円**(前期比235億円、4.37%増)となりました。

貸出金

◎ 貸出金については、地元金融機関としてできるだけ多くのお客様のお役に立てるよう貸出先数に拘った取組みに努めましたが、19年度に発生したサブプライムローン問題が20年度後半より、実体経済に大きく影響し、企業の急激な売上減少と設備投資の落込みにより事業性融資は伸び悩み結果となりました。

一方、個人向け融資については、住宅ローン・個人ローンに取り組んだ結果、53億円の増加(期中業種変更補正後4億円減少)となりました。

結果として、事業性融資の伸び悩みを個人向け融資でカバーし、貸出金の期末残高は**2,346億円**(前期比85億円、3.79%増)となりました。

損益

◎ 業務純益は、株価の下落や円高の影響により有価証券利息配当金収入が減少し、また、保有する株式・投資信託の減損処理や国債等債券の償却等により、**8億23百万円**(前期比18億63百万円、69.34%減)となりました。

◎ 経常利益は、上記要因があったものの、きめ細かなリスク管理の実施により資産の健全化に努めてきた結果、株式等売却益の計上に加え個別貸倒引当金が戻り入れとなったことから、**8億19百万円**(前期比14億36百万円、63.66%減)となりました。

◎ 当期純利益は、法人税等充当額2億11百万円、法人税等調整額56百万円を差し引き、**6億27百万円**(前期比8億82百万円、58.43%減)となりました。

平成20年度は、世界的な金融・証券市場の混乱により有価証券の市況が大幅に低迷したことや、店舗新設に伴う諸経費の増加等から、前期に比べ減益となりましたが、地域に密着したきめ細かな営業活動を続けた結果、諸般の状況からしてまずまずの収益が確保できたものと評価しています。

ワンポイントメモ

◎業務純益

金融機関の基本的業務で得た収益から費用を差し引いた利益。

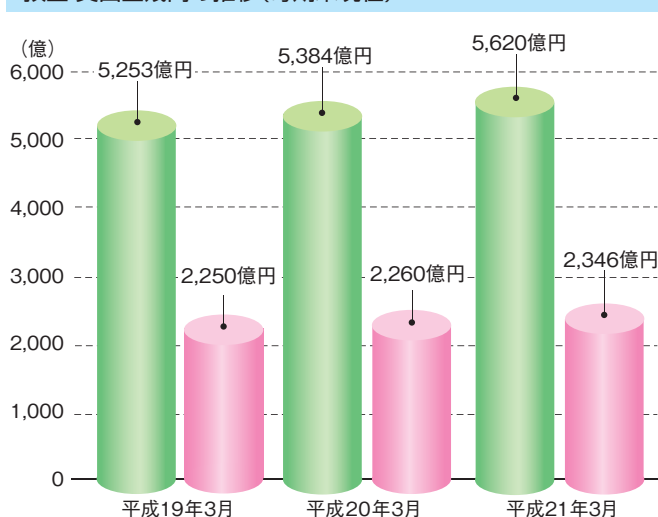
◎経常利益

基本的業務とその他の業務で得た収益から費用を差し引いた利益。

◎当期純利益

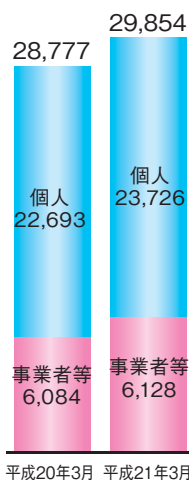
経常利益に特別利益・特別損失を加減し、法人税等を控除した最終利益。

預金・貸出金残高の推移(毎期末現在)



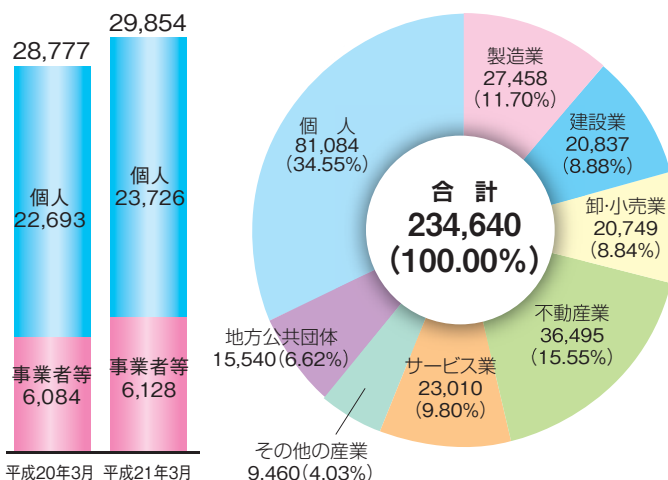
貸出先数

(単位:先数)



貸出金の業種別内訳

(平成21年3月末現在 単位:百万円)



(注)個人事業主の方の個人消費資金は、個人向資金として計上しています。

損益状況の推移(毎期末現在)

